

第71回 四国高等学校陸上競技対校選手権大会

競 技 注 意 事 項

(香川県立丸亀競技場)

1. 競技規則について

本大会は、2018年日本陸上競技連盟競技規則ならびに、本大会申し合わせ事項によって行う。

2. 練習について

- (1) 練習は、指定された練習場所を使用、プログラム記載の「練習会場使用日程」に従い実施すること。
- (2) 主競技場内での練習は競技役員の指示に従って行い、補助競技場については練習会場係の指示に従うこと。特に、投てき練習については、監督の付き添いのもと事故防止に努めること。
- (3) 棒高跳の練習については、大会当日9:00から主競技場内を使用することができる。
- (4) 雨天練習場使用について・・・シート等の使用により独占的な使用を絶対にしない。
 - 2～4 レーンは第3ゲートから第2ゲートへの同一方向走行とする。
 - 1, 5 レーンを周回のみとし、逆走は絶対にしない。
 - ハードルは使用できない。

3. 招集について

- (1) 競技者招集所は、第2ゲート内側(1500m スタート付近)に設ける。
- (2) 招集完了時刻は競技時刻を基準とし、下記のとおりとする。

種 目	予 選		決 勝	
	招集開始	招集完了	招集開始	招集完了
トラックの部	30分前	20分前	25分前	15分前
フィールドの部 (棒高跳、ハンマー投を除く)			50分前	40分前
フィールドの部(棒高跳)			60分前(現地招集)	
フィールドの部(ハンマー投)			30分前(現地招集)	
混 成 競 技			20分前	

- (3) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとして処理する。
- (4) 招集の手順
 - ① 競技者は、招集開始時刻に、招集所競技者控所で待機し、最終点呼を受ける。その際、競技者係にナンバーカード・スパイク・衣類・持ち物等の点検を受ける。
 - ② 混成競技は、第1日目・第2日目とも第一種目は競技者係が招集所にて招集するが、それ以降の種目については、混成競技係が混成競技控え場所で行い、点呼・確認後、各競技場所に誘導し、担当審判員に引き継ぐ。(混成競技控え場所は「トレーニングルーム3」とする。)
 - ③ 競技者控所は、当該種目の競技者以外の立ち入りを禁止する。
 - ④ 代理人による点呼は原則として認めない。ただし、2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、あらかじめ本人または代理人が招集所の競技者係に2種目同時出場届を提出する。
 - ⑤ リレー競技に出場するチームは、その種目の招集完了時刻の1時間前までに競技者招集所に用意しているオーダー用紙にオーダーを記入し、1枚提出すること。また、決勝においてもメンバー・オーダーの変更の有無にかかわらず、オーダー用紙にオーダーを記入し、招集完了時刻の1時間前までに提出すること。
 - ⑥ 棒高跳の点呼は競技場所で行い、点呼後は公式練習に入る。公式練習は3回に分けて実施する。
 - ⑦ ハンマー投の点呼は競技場所で行う。点呼終了後は公式練習に入る。公式練習は2回に分けて実施する。
 - ⑧ 棄権する場合は、招集開始時刻までに招集所の競技者係に棄権届を必ず提出すること。

4. 競技について

- (1) 競技者は、当該種目以外グラウンド(競技区域)内に立ち入ることはできない。
- (2) 短距離種目では、競技者の安全確保のためフィニッシュライン通過後も自分のレーン(曲走路)を走ること。
- (3) トラック競技において、欠場者がでた場合はそのレーンを空けて行う。

- (4)トラック競技(セパレート種目)において、8名(8チーム)以内の場合は2～9レーン、9名(9チーム)の場合は1～9レーンで行う。
- (5)トラック競技の計測は、全て写真判定装置(全自動電気時計 1/100)で行う。
- (6)4×100m リレーの第2・第3・第4走者は、主催者が用意するマーカー(1カ所)を使用することができる。そのマーカー以外は使用してはならない。
- (7)4×400m リレーの第3・第4走者のバトンの受け渡しは、コーナートップ順に内側より並ぶこと。コーナートップとは、第3コーナー内側に示された黄色旗を通過した時点のことである。この後は、並んだ順序を変えてはならない。
なお、次走者は、テークオーバーゾーンの内側より走り出さなければならない。
- (8)跳躍・やり投の競技者は、助走路の外側に主催者が用意したマークを、2カ所置くことができる。マークはそれぞれの審判員が現地で渡す。それ以外は使用してはならない。
- (9)三段跳の踏切板は、男子は 11m、女子は 10m地点に設置する。
- (10)携帯電話等の通信機器、ビデオ・デジタルカメラ等を競技場内に持ち込むことはできない。
- (11)競技中に起きた競技者の行為または順位に関する抗議は、規則第146条に基づき、正式に結果が発表されてから30分以内に、同一日に次のラウンドが行なわれる種目では15分以内に、当該競技者自身または、顧問が口頭で審判長に申し出ること。
- (12)スタートについては、2018年度ルールに準ずる。

5. 競技用シューズについて

スパイクの長さは9mmをこえてはならない。また、走高跳およびやり投の場合は12mmをこえてはならない。これらのスパイクの直径は、先端が4mm 以内でなければならない。また、スパイクの数は11本以内であれば何本でもよい。

6. ナンバーカードについて

ナンバーカードは指定された大きさ(縦20cm×横24cm)で、ユニフォームの胸部と背部に付けること。その際、折り曲げたり、汚したりしないこと。ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸部または背部だけでもよい。また、トラック競技者は、写真判定用の腰ナンバー標識を招集所で受け取り、パンツの左右後方に付けること。

また、3000m以上の種目と4×400mリレーの第2・第3走者、混成競技の最終種目については、主催者の用意したナンバーカードを胸部に付けること。

7. 競技場の中に商品名のついた衣類・バッグ類を持ち込む場合について

陸上競技ルールブック2018「競技会における広告および展示物に関する規定」の通りとする。

以下「抜粋」

(1) 上半身の衣類

a) ウインドブレーカー・Tシャツ・トレーナー類

製造会社名／ロゴ: 右胸または左胸1箇所

文字の高さ4cm 以内、トータルのロゴの高さ5cm 以内で40cm²以内の長方形。

b) ランニングベスト・レオタード

製造会社名／ロゴ: 右胸または左胸1箇所

文字の高さ4cm 以内、トータルのロゴの高さ5cm 以内で30cm²以内の長方形。

(2) 下半身の衣類

製造会社名／ロゴ: 1箇所

文字の高さ4cm 以内、面積20cm²以内。

(3) ソックス

製造会社名／ロゴ: 1箇所 高さ3cm以内、面積6cm²以内。

(4) バック

製造会社名／ロゴ: 2箇所 面積25cm²以内。

(5) その他の衣類(帽子・サングラス・手袋など)

1つにつき1箇所: 面積6cm²以内。メガネ・サングラスなどは2ヵ所まで表示することができる。

(6) 商標違反時の対応

着替えさせる(裏返しに着させる)・テープを貼って隠す。

8. 競技の抽選ならびに番組編成について

(1) 予選におけるトラック競技のレーン順、ならびに跳躍・投てき競技の試技順は、プログラム記載の左側に示された番号順とする。

(2) トラック競技の決勝ならびに跳躍・投てき競技の決勝については、主催者が公平に組み、レース順・試技順を決

定する。その結果を記録掲示板に掲示する。

- (3) リレーチームの編成メンバーは、どのラウンドにおいても本競技会のリレーまたは他の種目に申し込んでいる競技者であれば出場することができる。ただし、どのラウンドにおいても、出場するメンバーのうち少なくとも2人は当該リレー種目に申し込んだ競技者でなければならない。最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して、2人以内に限り、他の競技者と交代できる。

また、リレー競技に出場するチームは、同一デザインのユニフォームで出場しなければならない。

- (4) トラック競技においてプラス出場者を決める場合、その最下位で同成績(判定写真を拡大し、細部まで読み取り着差を判定し、着差がない。)がでた場合は、下記の方法で決定する。

① 100m・200m・400m・800m・100mH・110mH・400mH・4×100mR・4×400mR 競技の場合

同成績者については、次のラウンドへ進むことができる。レーンに余裕のない場合は、同成績者または、代理人によって抽選する。

② ①以外の種目の場合

同成績者については、すべて次のラウンドに進めることとする。

9. 競技用具について

- (1) 競技に使用する用具はすべて主催者が用意した物を使用しなければならない。但し、棒高跳用ポールに限り個人所有の物を使用することができる。ポールの検査は点呼時に跳躍審判員が行う。投てき用具については、競技場に準備されていない型番に限り検査を実施し、使用を認める。持ち込みを希望する者は、当日招集開始1時間前までに、用具を第1ゲート用器具庫に持参すること。検査に合格した用具は、参加競技者で共有できるものとする。競技終了後に第1ゲート用器具庫で返却する。

- (2) 練習用として個人の用具は主競技場に持ち込んで서는ならない。

10. 走高跳・棒高跳におけるバーの上げ方

走高跳	男子	1m70(練習) 1m75 1m80 1m83 1m86 1m89 1m92	以降 3cm
	女子	1m40(練習) 1m45 1m50 1m53 1m56 1m59 1m62	以降 3cm
棒高跳	男子	3m20、4m00、4m40(練習) 3m30 3m50 3m70 3m90 4m00 4m10	以降 10cm
	女子	1m90、2m50、2m80(練習) 2m00 2m20 2m40 2m60 2m70 2m80	以降 10cm 3m40(練習)

- (1) 走高跳・棒高跳の決勝で最後の一人になり優勝者が決まるまで、上記のバーの上げ方とする。

- (2) 第1位が同成績の場合、順位決定のためのバーの上げ下げは、走高跳では2cm、棒高跳では5cm 単位とする。なお、全国大会出場決定のための順位決定も行う場合がある。

11. 混成競技におけるバーの上げ方

走高跳のバーの上げ方は次の通りとする。但し、状況により変更する場合がある。設定より低い高さを希望する場合は練習開始前に申し出ること。(男子 1m50・女子 1m20 までは 5cm 単位でバーを上げる。)

男子8種	1m45(練習) 1m50 1m53 1m56 1m59 1m62 1m65	以降 3cm
女子7種	1m15(練習) 1m20 1m23 1m26 1m29 1m32 1m35	以降 3cm

12. 競技場の入退場について

- (1) トラック競技の競技者の入退場は、係員の指示に従うこと。
- (2) フィールド競技の競技者は係員の指示に従って入退場する。ただし、棒高跳およびハンマー投の選手は各自で入場する。
- (3) フィールド競技の入賞者は当該審判員が、トラック競技の入賞者は係員が表彰者控え場所に誘導する。

13. 表彰およびインタビューについて

- (1) 各種目第3位までの入賞者はユニフォームで表彰を受けること。その際、入賞者は決勝終了後すぐに入賞者控え場所(メインスタンド1F正面玄関ロビー内)で待機し、係員の指示を受けること。
- (2) 入賞者のインタビューは、入賞者控え場所で行う。
- (3) 入賞者の得点は、1位 8点、2位 7点 3位 6点・・・8位 1点とする。
- (4) 男子・女子それぞれ最優秀選手の表彰を行う。

14. その他

- (1) 大会期間中競技場で発生した傷害や疾病はメインスタンド1Fの医務室で応急処置を行うが、その後の責任は

負わない。なお、参加者は健康保険証を持参すること。

- (2) 更衣は雨天練習場の男子・女子更衣室を利用することができる。ただし、貴重品は各自で保管すること。
- (3) 記録証の交付を希望する競技者は、メインスタンド1F陸上競技場本部の記録証交付係に記録証交付願及び交付料金500円を添えて申し込むこと。
- (4) 記録は正面玄関 2F の記録掲示板に掲示する。
- (5) 競技場内でテントを張れる場所は、観客席芝生スタンドとバックスタンド 2F 通路から上の通行の妨げにならない場所に限る。横断幕・部旗・のぼり等については、メインスタンドを除くバックスタンド 2F 通路より上、ただし、個人名入りの横断幕等は禁止する。
- (6) 集団での応援は、メインスタンドでは全面禁止とし、バックスタンドと両サイドスタンドにおいては、フィールド種目の妨げにならないようにすること。
- (7) 大会期間中、補助体育館を開放しているので、各県指定の場所を使用することができる。
- (8) その他、詳細については事前監督会議で説明する。
- (9) 届け出用紙は以下の場所に用意してある。

2種目同時出場申請書・棄権届・リレーオーダー用紙・・・ 招集所競技者控え場所
記録証明書交付願・・・・・・・・本部(メインスタンド1F会議室)

15. 練習会場使用日程

	6月15日(金)	6月16日(土)	6月17日(日)	6月18日(月)
主 競 技 場	11:00～17:00 トラック競技 跳躍競技 13:00～16:00 やり投	9:00～9:30 女ハンマー投 12:00～12:30 男ハンマー投	7:30～9:00 トラック競技 跳躍競技	7:30～9:00 トラック競技 跳躍競技
補 助 競 技 場	11:00～17:00 トラック競技 跳躍競技 砲丸投 11:00～13:30 ハンマー投 13:30～16:00 円盤投	7:30～17:00 トラック競技 跳躍競技 砲丸投 10:00～12:00 男円盤投 12:00～14:50 女円盤投 15:00～17:00 やり投	7:30～17:30 トラック競技 跳躍競技 砲丸投 7:30～9:20 男円盤投 9:30～11:50 女やり投 14:00～16:00 男やり投	7:30～15:00 トラック競技 跳躍競技 砲丸投 8:00～11:50 男やり投

- * 上記、補助競技場のやり投練習時間については、フィールド内の規制を行い、やり投練習を優先する。
審判員の指示に従い、全ての競技者は安全に留意すること。

(補助競技場・雨天練習場の使用について)

① 補助競技場の使用について(レーンの使用については以下の通りである。)

- ・1～2レーンは、周回練習のみ使用可とする。但し、1レーンはトライアル、2レーンはジョグ練習とする。
(集団ジョグは不可。)
- ・3～4レーンは、短距離、リレー練習を優先する。
- ・5～6レーンは、400mHを優先する(大会2日目まで)。
- ・ブロックを使用してのスタート練習は、多目的広場側直走路4～7レーンのみとする。
- ・多目的広場側直走路9レーンは、女子100mH、11レーンは、男子110mHとする。
- ・テント等を設営しての独占的な使用をしない。

② 雨天練習場の使用について

- ・ピストルの使用は禁止する。
- ・入場は、第2ゲート側の入り口より入場することができる。第3ゲートからの出入りは禁止とする。
- ・シート等を敷いて独占的な使用をすることを絶対にしない。
- ・ウォーキング・ジョギングなどペースが著しく遅いウォーミングアップまたは、動きづくり程度の練習は行ってもよい。
それ以外は補助競技場で行うこと。
- ・ウォーキング・ジョギング等は左回りとし、逆走はしない。
- ・ハードル・スターティングブロックは使用できない。